

# 日本音楽教育学会 ニュースレター - 第7号

Japan Academic Society for Music Education: News Letter No.7 2002 3/20

## 目 次

任期満了を迎えて（山本文茂）.....	2
平成13年度臨時常任理事会報告 .....	3
平成13年度第3回常任理事会報告 .....	5
平成13年度第2回理事会報告 .....	5
今期・次期合同理事会報告 .....	6
新刊紹介（小泉恭子）.....	7
ISME 2002 第25回世界大会へのご案内（村尾忠廣）.....	8
日本音楽教育学会第7回音楽教育ゼミナール"2002" .....	9
日本音楽教育学会第33回全国大会へのご案内（1）.....	10
第32回大会報告（事務局）.....	11
住所・所属変更及び新入会員住所 .....	15
編集後記 .....	18

## お知らせ

学会事務局が移転しました。（電話番号等は変更ありません）

### 【事務局新住所】

〒184-0015 東京都小金井市貫井北町 2-5-22 ハイツシーダ 1-102

# 任期満了を迎えて

会長 山本文茂

拝啓 会員の皆様へ

三寒四温の不順な気候が続きますが、いかがお過ごしでいらっしゃいますでしょうか。平成10(1998)年10月、広島・エリザベト音楽大学における第29回大会で会長を仰せつかってからはや3年半が経過し、平成14年3月末日をもって私の会長職も任期満了となりました。

本ニュースレター創刊号のご挨拶の中で、私は機能的音楽のもつ社会的・心理的価値の実現、新教育課程における音楽科教育の新たな使命・役割の自覚、時代や社会の変化に応じた音楽教育学のトータルな見直しなどについてご提言申し上げました。そのいずれに関しましても、学会として目に見える成果を挙げることができたとは言えませんが、それぞれの大会・地区例会における会員の皆様の地道な探究活動、学会誌への果敢なチャレンジ精神などのなかに、そうした新たな課題意識の発露を垣間見ることができたと確信しております。

この3年半を振り返りますと、第30回(東京芸術大学)大会では、児童生徒を迎えての授業研究は画期的なことでしたし、第31回(宮城教育大学)大会では、地域文化と教員養成の連動関係の軌跡が鮮やかに描き出されました。そして第32回(琉球大学)大会では、そうした連動の軌跡を、沖縄という独特の地理的・社会的・文化的コンテクストのなかで一層掘り下げ、音楽と教育の根源にまでさかのぼって日本の音楽教育の未来展望を企図してくださったのですが、不測の事態により代替(東京芸術大学)大会となってしまったことは、いまだに残念無念の極みでございます。会員の多数の皆様にも物心両面にわたって多大なご迷惑をおかけしたことを、重ね重ねお詫び申し上げますとともに、いつの日にか沖縄の地で、芸大代替大会でできなかったことを必ずや実現して下さることを、会員の皆様とともに祈念申し上げたいと存じます。そして、第33回(金城学院大学)大会では、東海地区ならではの活気に溢れた伝統音楽のイベントやプレゼンテーションが期待できるものと思われまます。

本学会設立30周年を記念して出版された『音楽教育学研究』(全3巻)は、質・量ともに記念出版にふさわしい内容を誇っておりますが、もうひとつの『音楽教育事典』の方は、諸般の事情により、残念ながら大幅に刊行が遅れております。この刊行につきましては私にも責任の一端があるものと念じ、今秋もしくは年明けに予定されている刊行に向けて、拡大編集委員会の一員として編集作業を続けさせていただきたいと存じます。

最後に、この3年半にわたって本学会の運営を見えないところで懸命に支えて下さった理事・役員の皆様、各委員会の委員の皆様、とりわけ、大事な場面でいつも私を助けてくれた副会長の平井健二・村尾忠廣の両氏、そして誰よりも、きめ細かな女房役を見事に勤めて下さった宮野モモ子事務局長に心から感謝を申し上げます。

願わくは、村尾忠廣新会長のもとで、心機一転、本学会がニュー・パラダイムを迎えられんことを!

敬具

# 平成 13 年度臨時常任理事会報告

日 時：平成 13 年 11 月 4 日（日）14:00～17:00

場 所：東京芸術大学音楽教育研究室

出席者：山本文茂（会長）、村尾忠廣（副会長）、平井建二（副会長）、宮野モモ子（事務局長）、大西友信、佐野靖、坪能由紀子、遠山文吉、杉江淑子（記録）

欠席者：岩井正浩、岩崎洋一、三好恒明

## 議 題

「ニュースレター臨時号・会長書簡（案）」について

### 1．会長書簡（案）の検討

10 月 29 日付けで各理事宛に送付したニュースレター臨時号・会長書簡（案）について、理事各位から寄せられた意見、およびその後の状況の変化等を検討し、下記の点を修正・追加することとした（11 月 6 日郵送済み）。

- (1) シャイヤステ 榮子沖縄大会実行委員長からの書簡を受け、東京芸大で開催する大会の実行委員会は東京芸大単独で組織することとし、「追伸」としてその旨を記載するとともに、さらに「お便りの行間に溢れた沖縄大会実行委員の皆様のお気持ちをしっかりと受けとめ、近い将来の沖縄大会の実現を心から期待しております。」の一文を記す。
- (2) 上記の変更に伴い、2 頁目、中央部外枠で囲まれた「パネル・ディスカッションを除く………実施する」の部分の外枠をはずし、さらに、その下の 2 行「この方針について………受ける」については、誤解を避けるために削除する。
- (3) 本文 12 行目「事態を知った方々」の後に、「交通・宿泊のキャンセルをされた方」を追加する。
- (4) 2 頁目、下から 2 行目「ご精進下さい。」の後に、「なお、期日の決定につき、第 1・第 3 土曜日をはずしたいと考えましたが、開催大学の都合でこのようになりましたことをお許し下さい。」の一文を追加する。
- (5) ニュースレター臨時号 会長書簡「追伸」の後に、「事務局からのお知らせ」として、今回の突発的な事態においては、正会員に対して、旅費等の損失に対する金銭的補償はできない旨の断りを記載する。（関連 議題 参照）

\* 会員には、上記の修正・追加をしたニュースレター臨時号とともに、新聞記事の切り抜きのコピー 3 枚、シャイヤステ 榮子沖縄大会実行委員長からの書簡を同封して送付することを確認した。

### 2．理事等から寄せられた意見の検討

第 32 回大会およびニュースレター臨時号に対す

る理事から寄せられた意見について、検討し、以下のとおり対応することとした。

#### (1) 大会期日の設定に関して

岩井理事、伊野理事から他の日程の可能性についても検討してほしいとの意見が寄せられたが、年を越すと各大学・学校等の入試業務や年度末業務等が忙しくなること、および開催大学の都合等により、12 月 1 日、2 日に設定せざるを得ないという結論に達した。学校関係者の方が出席しやすい第 2・第 4 土曜日に設定できなかったことについては、ニュースレター臨時号にてお詫びをすることとした。（議題 の 1 の (4) 参照）

#### (2) 理事会の期日の設定に関して

佐橋理事から事前に、従来通り前日に理事会を開催できないかとの意見が寄せられた。しかし、理事等役員は既にこの大会に関連して勤務先の授業を幾度か中断しているため、金曜日の授業を済ませてから上京できるよう配慮する必要があること、パネル・ディスカッションを行わないことから大会第 1 日目の午前中に時間ができること、を考慮し案内通り 12 月 1 日午前中に開催することとした。

#### (3) 総会の定数確保と議題提案要請について

佐橋理事から事前に、総会の定数確保のための委任状確保についての対応について提案があった。これについては芸大大会として新たに出欠確認と委任状の葉書を発送し、11 月 15 日までに返信されることになっており、佐橋理事の提案どおりに対応されることが確認された。同じく佐橋理事から、会員に討議案件提案を依頼することの提案があったが、この件については今後の検討課題とし、今回は従来通りに進めることとした。

#### (4) キャンセル料等の取り扱いについて

佐橋、三好両理事から、旅費のキャンセル料等で何らかの損失を被った会員等に対して、金銭面での補償は難しいにしても慎重に対応するようにとの意見が寄せられた。これに関しては、ニュースレター臨時号にお詫びの文章を追加することとした（議題 の 1 の (3) 参照）。

\* この問題については、さらに議題 にて検討した。

### 3. 《沖縄タイムス》 10月27日付け社説の取り扱いについて(資料参照)

協議した結果、同封した「会長コメント」にあるように、沖縄県民感情や関係者の方々の心情等を配慮し、静観することとした。従って、この新聞記事の内容については、理事各位にのみ知らせ、会員には送付しないこととした。

・沖縄大会中止に伴う旅費等の損失補償の原則と参加費・懇親会費の取り扱いについて

#### 1. 旅費等の損失補償の原則について

旅費等の損失補償について、非会員、会員のさまざまなケースを検討し、次のような基準に従って対応することとした。

##### (1) 非会員への対応について

学会から特別に出席を依頼した方、およびプロジェクト研究で依頼したゲストなど非会員が、連絡が間に合わずに現地に赴いたりあるいは連絡を受けてキャンセル料を支払ったり等、何らかの損失を被った場合には、その直接的な損失額の実費を支払う。その損失の実態については、各プロジェクトの代表者を通じて問い合わせる。

##### (2) 会員への対応について

会員に対しては、突発的な止むを得ない事態であったことから、旅費等の金銭的な補償ができないことを知らせる。しかし、開催中止を知らずに沖縄まで行った会員や連絡を受けてキャンセル料を支払った会員などをはじめとして、多くの会員が損失を被ったので、そのことをニュースレター臨時号で通知し、お詫びするとともに(議題の1の(3)および(5)参照)、総会でも説明し理解を求める。

#### 2. 納入済みの大会参加費、懇親会費について

芸大会参加者には振り替える。納入済みで、芸大会欠席者には返却する。

参加・不参加の確認は11月15日締め切りの発送済みの葉書で行う。

・今年度の会計執行状況と今後の会計見通しについて

今年度会計についての事務局からの説明に基づき、今後の会計の取り扱いに関して下記のように対応することとした。

現在残金約500万円、今年度中の今後の収入見通しが約140万円として合計640万円である。支出については、今後の通常の支出見通し490万円の他に、今回の大会の期日・会場変更への対応に伴うキャンセル料支払い等の経費、さらに事務局移転(議題の1参照)に伴う諸経費などの予定外の支出が見込まれる。従って、場合によっては「学会基金」の一部をその補填に

充てる必要が出てくる可能性があるため、理事会での提案・了承を経た上で、総会にて説明し、会員の承認を得ることとした。

・事務局関係

#### 1. 事務局移転に関して

現在の事務局(小金井市貫井北町2-8-6星野ハイツ203)が、大家から1月末までの立ち退きを願い出られるという緊急の事態となっている。不動産の契約では今年度いっぱいの契約となっているが、最長でも3月末には完全に引き払う必要がある。

この事態への対応に関して、学会事務センターへの移行の可能性を含めて該当資料を確認しながら協議した。その結果、事務局業務の全般的な洗い出しや次期学会運営体制との関係など検討すべき事項が多いことから、会長、副会長、事務局長、会計を中心として合議を進め、次期常任理事会に提案をすることとした。

#### 2. ホームページへの掲載について

大会関係の通知・案内を最新のものに切り替える。ニュースレター臨時号の掲載も含めて、案文等は村尾副会長・ホームページ委員会委員に一任する。

・芸大での第32回大会案内と要項について

事務局からのお知らせと大会要項について確認し、これらをニュースレター臨時号とともに、会員に11月5日付けで送付することとした。

・その他

#### ・理事選挙について

岩井理事から理事選挙に関する意見が寄せられた。協議した結果、選挙の実施に関しては選挙管理委員会にすべて委任されているので、今回の結果については、現理事会は一切口を挟まないことを確認した。

## 平成 13 年度第 3 回常任理事会報告

日時：平成 13 年 12 月 1 日（土）9：00～

場所：東京芸術大学大会議室

内容：平成 13 年度第 2 回理事会の議題について確認がなされた。

## 平成 13 年度第 2 回理事会報告

日時：平成 13 年 12 月 1 日（土）10：00～

場所：東京芸術大学大会議室

出席：山本、平井、村尾、宮野、岩井、岩崎、大西、佐野、杉江、坪能、遠山、三好、中村、高萩、筒石、丸山、吉田、佐橋、中原、梁島、野波、吉富

欠席：伊野、大畑、藤川、降矢、吉森

### 【報告事項】

#### 1．会務報告（宮野事務局長）

平成 13 年 6 月以降の内容について報告された。

#### 2．会長・理事選挙について（茂木選管委員長）

会長・理事選挙の経過が報告された。東海地区・近畿地区で辞退者があり下記のように繰上げが行われた。

東海地区 大西友信 南 曜子  
近畿地区 柳生 力 竹内俊一

第 32 回大会プログラムに掲載された選挙結果で東北地区の投票率に計算ミスがあり訂正された。

#### 3．第 32 回大会について

ア、会場変更の経緯（山本会長）：ニュー・スレター臨時号、会長書簡にもとづき説明

イ、研究発表：会場変更に伴い発表者に変更が生じたため、新たに要項（目次）を受付で配布する。研究発表数は 38 本。

ウ、プロジェクト研究は A B C D E と 5 会場で行われる。また、コメンテーター等に若干の変更がでた。

エ、若手研究者の集い：学芸大・芸大・千葉大の現職の院生と Q & A 形式で語り合う。

#### 4．各種委員会報告

30 周年記念事業事典編集委員会（吉田編集委員）  
11 月 23 日に行われた拡大委員会等の経過が報告された。

編集委員会（杉江編集委員）

以下の 6 件の報告がなされた。

ア、先に投稿規程が改正されたのにもない、編集委員会規定を一部改正する。総会に提出される。（内容については総会報告参照）される。

イ、学会誌は第 31 - 2・3 合併号とし 12 月末に発行予定。内容は研究論文 3 本、研究動向 1 本、研究報告 1 本となる予定。第 31 - 4 号は大会特別号として 3 月に発行予定。

ウ、研究報告については原則として 6 ページとし、増ページを認める。枚数については検討中である。

エ、論文投稿のための詳細なマニュアルを作ることを検討中。

オ、次号の学会誌より編集後記を掲載することとした。

カ、ニュー・スレターが発行されるその都度、編集委員会からのお知らせを掲載する。

音楽文献目録委員会（佐野委員）

第 29 号が発行された旨の報告がなされた。

#### 5．各地区例会報告

北海道地区 2 月

東北地区 終了

関東地区 2 月 9 日 13：30～東京学芸大学

北陸地区

東海地区 2 回目

近畿地区 2 回目を 2 月又は 3 月の予定

中国地区 2 月又は 3 月に予定

四国地区

九州地区 3 月初旬の予定（大分大学）

### 【協議事項】

#### 1．第 7 回音楽教育ゼミナールについて

日時：平成 14 年 9 月 6 日（金）～8 日（日）

会場：くらしき作陽大学

テーマ：生涯学習時代の音楽教育

詳細については 3 月の学会誌発送と共に第 2 次案内でお知らせする。

## 2. 事務局の運営について

### ア、事務局の移転について

現在入居しているアパ - トの閉鎖に伴い、次期運営にむけて、早急に移転など運営をめぐる様々な検討が必要となるため、今期・次期合同常任理事会を開くこととした。1月13日(日)に決定。

ニュー - スレタ - 7号は3月末に発行することとした。

### イ、13年度会計中間報告

沖縄大会の中止に伴い大会費用・郵送費等の出費が考えられるため、13年度補正予算を組み、総会に提出することとした。(総会報告を参照)

## 3. 第33回大会について

会場：金城学院大学

月日：11月9日(土)～10日(日)

実行委員長 浅野隆 教授

内容：総会・研究発表・プロジェクト研究シンポジウム、ワ - クショップを企画中

## 4. 第34回大会について

近畿地区 神戸大学の予定。

## 5. 新入会員および退会者の承認

正会員 2962番～2985番 2名

学生会員 1名

申し出退会者 2名

12年度自然退会者 58名

会員数 12月1日現在 1644名

## 新入会員紹介

2962	新井 恵美	花咲徳栄高
2963	中嶋 妙子	鳥取大院生
2964	横内 愛理	岩手大院生
2965	熊谷 佳展	岩手大院生
2966	柴谷いく美	岩手大院生
2967	入山 克巳	結城市立結城中
2968	花田 喜龍	高萩市立高萩中
2969	石原 慎司	北海道紋別高等養護学校
2970	橋本 雅央	東京芸術大院生
2971	小谷 多幸	福岡教育大院生
2972	八倉 香織	広島大院生
2973	前野さやか	広島大院生
2974	石黒美代子	広島大院生
2975	香曾我部琢	山形大
2976	古賀 弘之	広島大院生
2977	宮古 朋枝	岩手大院生
2978	安藤 珠希	東京芸術大院生
2979	金森 信午	広島大院生
2980	畦内 真希	鳥取大院生
2981	新井 幹	高崎芸術短期大学
2982	土井 広一	広島大院生
2983	齋藤あかね	信州大院生
2984	飛沢 正吾	東京学芸大院生
2985	東 正生	熊本県立玉名高
	学生会員	
B-44	遠 藤 美 奈	洗足学園大学

## 今期・次期合同常任理事会報告

日時：平成14年1月13日(日)14:00～

場所：東京芸術大学音楽教育研究室

出席：岩崎、岩井、奥<sup>(\*)</sup>、加藤<sup>(\*)</sup>、北山<sup>(\*)</sup>、佐野、重嶋<sup>(\*)</sup>、島崎<sup>(\*)</sup>、杉江<sup>(\*)</sup>、筒石<sup>(\*)</sup>、坪能<sup>(\*)</sup>、遠山、平井<sup>(\*)</sup>、藤沢<sup>(\*)</sup>、宮野、村尾<sup>(\*)</sup>、山本 (アイウエオ順)

欠席：大西、丸山<sup>(\*)</sup>、三好

(\*)は次期会長、副会長及び常任理事

## 議 題

### 1. 事務局運営について

事務局移転場所については現在、学芸大学付近に2ヶ所候補があがっており、今後の事務局の作業から考えると、1月末から2月初頭にかけ移転の予定であるが運営については更に検討を続ける。移転と同時にパソコンのADSL申し込みをする予定である。

### 2. 新入会員の承認

正会員 2986番～2988番 3名

団体会員ユニバ - サル株式会社 1社を承認

### 3. 新常任理事各委員の役割分担について

#### 新編集委員について

理事からは南曜子氏(金城学院大学)、常任理事からは坪能由紀子氏(高知大学)が務める。

各担当者については下記の各氏となった。

事務局長 筒石賢昭  
企画 加藤富美子・島崎篤子・丸山忠璋  
総務 奥忍・北山敦康・藤沢章彦  
会計 重嶋博・杉江淑子  
会計監事 岩崎洋一・宮野モモ子

4.ホ-ムペ-ジ作成委員会委員は下記の各氏となった。  
北山敦康・筒石賢昭・坪能由紀子

5.ニュー-スレタ-編集作業について

発行編集担当はNo.7村尾(3月発行予定)、  
No.8坪能、No.9奥、No.10筒石、No.11藤沢  
の各氏が当たり、実際の編集作業は北山氏が行  
う。印刷は現行のままとする。

6.その他

第33回大会について

北山氏から日程案が説明された。  
会場：金城学院大学、期日は11月8日(金)理  
事会等、9日(土)・10日(日)総会・研究発表等。  
なお今後内容については検討を重ねる。

30周年記念事業事典について

予定定価19,000円(1,500部印刷の場合)とし  
て、1月6日の拡大編集委員会での討議内容を  
もとに執筆者へのお礼について話し合われた。  
その結果、以下のような意見が出され、今後音  
楽之友社との話し合いを持つこととなる。

ア、非会員執筆者全員と会員執筆者(4項目以  
上執筆)1冊進呈する。

イ、会員執筆者のうち3項目以下の方に割引を  
考えたい。

ウ、これらの費用は、学会基金から支出すること。  
エ、CD-ROM化をどのように考えるか。

例会案内

北海道地区	3月2日(土)	北教大函館校
関東地区	2月9日(土)	東京学芸大学
北陸地区	2月16日(土)	金沢大学
東海地区	3月23日(土)	愛知教育大学
近畿地区	3月9日(土)	滋賀大学
中国地区	2月23日(土)	島根大学
九州地区	3月16日(土)	大分大学

音楽文献目録委員会

ア、各大学の修士論文リストをもれなく提出し  
てほしい旨要望が出された。

イ、新年度委員交替については会長に指名を依  
頼した。

ウ、委員会出席の際の交通費を支給することと  
決定した。

新入会員紹介

2986	井上 悠子	宇都宮大学院生
2987	土屋 有里	
2988	福田 理恵	上甲子園中学校 団体会員
C-8	ユニバ-サル株式会社	

## ~~ 新刊紹介 ~~~~~

阿部勘一・細川周平・塚原康子・東谷護・高澤智昌『プラスバンドの社会史 軍楽隊から歌伴へ』  
青弓社、2001年、242頁

本書は、第12回日本ポピュラー音楽学会大会シンポジウム「ア・ジャパニーズ・バンドマン 軍楽隊から歌伴へ」(2000年11月; 淑徳大学)をもとにまとめられたものである。社会学、カルチュラル・スタディーズ、洋楽受容研究、ポピュラー音楽研究、そしてライフヒストリーという多角的なアプローチによる5章からなる。第1章では阿部が、学校吹奏楽について、大衆音楽としてのプラスバンドと対照させながら考察している。第2章では細川が、オランダの人類学者フレスによるプラスバンドの発展の理論に基づき、日本におけるプラスバンドの歴史を検証している。第3章では塚原が、第2次世界大戦前の軍楽隊がいかに戦後の日本のプラスバンドの発展の基盤となったか詳述している。第4章では東谷が、日本の歌謡曲のバックバンドにおける管楽器の響きを検討している。第5章は、バンドマン・高澤智昌のライフヒストリーとなっており、軍楽隊出身の氏が、戦後、服部良一や山田耕筰とのつながりとおして、ジャズや広告音楽など、多様な音楽ジャンルに関わっていった経緯がつつられている。いずれのアプローチも、プラスバンドの社会史と学校吹奏楽との関連性を有益に示唆するものであり、音楽教育関係者にとっても読み応えのある書となっている。

(小泉恭子記)

## ISME 2002 第 25 回世界大会へのご案内

2002 年 8 月 11-16 日 於：ベルゲン市・ノルウェー  
--- "SAMSPHEL" --- 垣根を越えて多様な文化を音楽と共に

ISME 理事 村尾忠廣



### 【愛らしきグリークの生地ベルゲン】

昨年夏、ISME の理事会でベルゲンに行ったが、うわさに違わずこの町は小さく、そして愛らしかった。ノルウェー第二の都市だというのに、町の中心部はほとんど歩いてゆける。そもそも高層ビルというものがない。赤い屋根の 5, 6 階建ての家が寄り添っていて、周囲は海と公園に囲まれている。町を歩いているだけで、何かしらホットした安らぎ、ちょっとした「心地よい興奮」につつまれてしまう。私の場合、その興奮はしばしば、名前の知らない樹木や花であり、そして海辺の洒落た居酒屋であった。この道をこうやって降って、グリークの生地をまわり、ここで音楽を聴いて、その先の丘の喫茶店でお茶を飲み、夕食はぜったいあの海辺のレストランだ。初日はこのコースで 2 日目は --- などと夢想してしまうのである。いや、そういう夢想をしたくなるような町だと言うべきなのだろう。不見識に思われるかもしれないが、ISME 大会の参加者にとって会議の疲れを癒し、音楽の余韻に浸ることのできるような町並み、風景、レストランが不可欠なのである。ベルゲンはその意味で理想的な大会会場だろう。私は、生魚が食べられないが、ノルウェーには独特に薫製した美味な料理が多い。食通にとってはまた格別の町・・・ということである。

### 【大会テーマ"SAMSPHEL"について】

"SAMSPHEL"とはノルウェー語で、一緒に音楽しよう、ということらしい。一緒にというのは、単に

みんなで一緒に、ということではなく、音楽の領域を越えて人間のさまざまな社会的文化的行動と「一緒に」ということである。具体的には言えば、音楽と踊り、物語、テクノロジーというようなこと。基調講演は、このテーマにしたがった内容となっている。講演者はすべて西洋人で占められていて少なからず問題であるが、注目されるのは今や質的研究の騎手として一躍脚光を浴びている L. Bresler が「仮想と現実の境界を越えて」というトピックで講演することである。1994 年、マイアミのリサーチセミナーで彼女がデビューした時、私は司会を務めていた。その時の様子からその後の彼女の活躍を予想することは難しい。うまく時流に乗ったと言えなくもないが、しかし、まぎれまなく、彼女は今、世界でもっとも注目を集めている研究者になったわけである。ISME に参加したなら彼女の講演は聞き逃すべきではないだろう。

### 【ISME 入会、大会申込み手続きなど】

北欧は気候の関係で 7 月まで授業があることから、この地域での開催は 8 月となる。日本の音楽教師にとってこの点は都合がよい。通常、ISME の大会は 7 月開催であるためなかなか参加したくてもできない人が少なくないからである。8 月開催の ISME はこの先いつになるか検討もつかない。ISME に関心のあるかたは、この機会を見逃さないようにしてぜひ参加いたしましょう。申込の早割りは 4 月 15 日です。詳しくは、下記の Website をご覧ください。

<http://www.isme.org>



## 日本音楽教育学会第7回音楽教育ゼミナール"2002"

### くらしきゼミナール9月6日(金)～8日(日)

企画の応募をたくさんありがとうございました

くらしきゼミナールでは音楽教育の今日的課題,トピックス,活動を満載します。参加者は多様なメニューの中から自分自身の興味と関心に応じてプログラムを組むことができる主体的なゼミナールです。

寄せられた企画は多種・多彩!!!!

公募企画は1月31日に締め切りました。文字通り,多様化の時代を実現するゼミナールになりそうです。今回は内容の一端をご紹介します。

#### ラウンドテーブルまたはワークショップ(企画責任者とタイトル)

小川 昌文 授業研究	田中 健次 メディアリテラシー
坪能由紀子 授業研究	山本 文茂 モノドラマの授業実践
藤沢 章彦 授業研究	北山 敦康 音域と声域
枘田 祐子 実践者による授業研究	南 曜子 幼児と発達
井戸 和秀 音楽をわかること	降矢美彌子 多様な人々,多様な声
小泉 恭子 質的研究	比嘉 康春 沖縄の三線を弾こう
安田 寛 歴史研究	杉江 淑子 生涯学習の基盤としての学校教育
高須 一 評価	篠田 知璋 芸術療法
筒石 賢昭 音楽教師教育	

#### スポット・イベント

村尾 忠廣 うたとしての「君が代」	和田垣 究 韓国の音楽
岡田加津子 ボディ・パーカッション	杉本 節子 箏曲 等々

参加費 会場が大学のためこれまでより格安まちがいなし!

しかも,アーリーバード制!

参加申し込み早割(アーリーバード)優待:6月1日(土)

次のお知らせをお見のがしなく!

正確な金額は算定中につき今しばらくお待ち下さい。

懇親会はチボリ公園,

一度は行ってみたいがこんなことでもないと大人一人ではなかなか行けない懇親会会場!

宿泊は,倉敷市が日本と世界に誇るアイビースクエア,

日本の歴史と国際化の現代が交錯する2夜をただの消費に終わらせるのも,楽しく充実する時間にするのも,参加者次第!

夜間の討論,アクティビティはまだ受付中。斬新なアイデアをお待ちします。

くらしきゼミナール実行委員会

委員長:三好恒明 miyoshi7@po.harenet.ne.jp

副委員長(企画担当):奥 忍 s-oku@mbox.kyoto-inet.or.jp

<http://sci.ed.okayama-u.ac.jp/music/oku/Shinobuchan/04-Kurashiki-seminar.html>

## 日本音楽教育学会第33回全国大会へのご案内（1）

2002年11月9日（土）10日（日）  
大会本部 金城学院大学（名古屋）



ランドルフ記念講堂

大会実行委員長 浅野 隆（金城学院大学）  
大会事務局 南 曜子（金城学院大学）

今年の日本音楽教育学会全国大会は、名古屋にあります金城学院大学で開催される予定です。金城学院は名古屋中心街から電車で約25分という比較的便利な場所にありながら、緑豊かなキャンパスを誇っています。また、伝統のあるプロテスタント系の女子大で、ランドルフ記念講堂にそびえる塔の鐘は金城学院のランドマークになっています。

現在、14名の東海地区学会員による実行委員会が組織され、学会準備が進められています。実行委員会では、学会員の皆様の研究発表の場として充実した環境を整えることはもとより、非会員の音楽教育関係者も含め、広く一般参加を呼びかけるプログラムを準備したいと考えています。具体的には、大会初日に“芸どころ名古屋”にふさわしく、日本伝統音楽を体験するワークショップを企画しています。また、ワークショップの流れを汲んで、シンポジウムでは日本伝統音楽を習得するための”構え”をテーマにし

た構成を検討中です。なお、この初日の企画は小中の音楽の先生方にも興味を持っていただける内容にしたいと考えています。

学会二日目には音楽療法の特別講演を予定しています。音楽療法への関心は、今や、近接領域である音楽教育の学会員が看過できないほど高まっています。そのような時だからこそ、音楽療法とは何かを日本音楽教育学会として考える機会が必要だと考えました。なお、日本音楽療法学会の会員の方々にも講演参加を呼びかけていくつもりです。

この他にも、たとえば全国の院生に院生フォーラムへの参加を働きかけるなど、様々なバックグラウンドの人々が自分の興味関心にしがって参加できるような大会にしたいと思っています。今後もニュースレターで準備状況をお知らせしてまいります。11月9、10日のスケジュールは今から大会のために空けておいて下さるようお願いいたします。

## 第32回大会報告（事務局）

日時：平成13年12月1日（土）2日（日）

場所：東京芸術大学

・総会

日時：平成13年12月1日（13:00～14:00）

場所：東京芸術大学 5-109号室

開会に先立ち定足数が確認された。

・会員総数1644名、定足数329名

・出席78名（委任状335通）により成立

司会：佐橋 晋（東海地区代表理事）

### 1．開会の辞（村尾忠廣副会長）

### 2．挨拶（山本文茂会長）

9月ニューヨークにおけるテロの影響で10月に予定していた沖縄大会を中止。ニュースレターの臨時号の会長書簡で経過報告。一年以上をかけて、準備を続けてきた琉球大学の皆様に感謝とねぎらい。中止によって物心両面において負担をかけた会員へのおわび。

沖縄大会に代わる大会として東京藝大における大会は、パネルディスカッション等のない簡素な形となったが、総会、研究発表、プロジェクト研究、若手研究者の集いなど充実したものであることは変わらない。大会を通じて新たな発見と出会いを持つことを期待。

新しい学習指導要領の実施を来年に控え、教育現場ではさまざまな不満や問題が満ち溢れている。こうした中で人間と音楽と教育の原点に立ち返り、音楽教育の進むべき確かな道をさぐる事が日本音楽教育学会に課せられた重大な責務であると考え。音楽は学校に無くてはならないものであるという言葉が子どもたちの口から出るような音楽授業の発想を会員一人一人がクリエイトしていかなければならない。そのためのエネルギーが大会を通して皆様の心に沸き起こることを祈念。

大会にかかわって、財政上の問題から封筒など琉球大学で使うものを流用したことを勘弁願いたい。

琉球大学から2名が大会に参加。感謝の気持ちをこめてお礼を申し上げたい。沖縄の大会の実質的な仕事を中心にいただいた津田正之先生からひとこといただきたい。

（津田正之）実行委員長のシャイヤステ先生のかわりに挨拶させていただきたい。沖縄大会を楽しみにしていたという声がたくさん寄せられている。この結果になって心底断腸の思い。9月23日のテロがあって、10月初旬にアメリカの軍事行動が始まった。沖縄では修学旅行、観光ツアー等のキャンセル騒動が大きな波紋となっていた。学会員からもいろいろな声が届いていた。沖縄は本当に大丈夫かという心配の声や、この状況下で沖縄でやることについて議論はないのか、キャンセルが多いようだが大丈夫か、私たちもはたらきかけようかという好意的な声などが、特に10月の中旬頃にたくさん寄せられた。10月の中旬、台風で交通が完全にマヒする日もあった。そういった声を大会本部に伝えつつ、無事に沖縄大会ができればと思っていたところ、こういった事態になって、断腸の思い。ふたつ申し上げたい。ひとつは中止が決定して、たくさんのメールや電話があった。そのほとんどが今までの準備に対する励ましやねぎらいであった。多くの大会の会員にささえられたものであったことを実感し、会員のあたたかい気持ち伝わった。もうひとつは、沖縄大会の実行委員会について。琉大の、学会員以外の先生方も好意的に、運営の実質的なメンバーとして参加。琉大以外の学会員のメンバーも自主的にいろいろな仕事をしてくれた。この件はぜひ伝えたい。残務整理が終わったばかりで、今後についてはまだ考えづらい。しかし、5年後、10年後、あるいはもっと先に、機が熟したときにタイミングが合えば、ぜひ沖縄でやることができたらという気持ちを沖縄実行委員一同思っている。皆様に多大な迷惑をかけたことをおわび申したい。

### 3．議長選出

慣例により関東地区代表理事の筒石賢昭氏が選出された。

### 4．報告

（資料：大会プログラム、第32回総会資料）

## 1) 会務報告(宮野事務局長)

平成12年

- 11月4日 事典編集委員会(於談話室滝澤;新宿)
- 12月9日 事典編集委員会(於東京芸術大学)
- 16日 30-3編集委員校正(於事務局)
- 27日 学会誌30-3号発送(於小金井郵便局)
- ニュースレター3号・会員名簿同時発送

平成13年

- 1月6日 事典編集委員会(於東京芸術大学)
- 27日 選挙管理委員会「新旧」合同委員会(於東京芸術大学)
- 事典編集委員会(於東京芸術大学)
- 2月12日 平成第4回編集委員会(於東京芸術大学)
- 平成12年度第4回常任理事会(於東京芸術大学)
- 3月3日 選挙管理委員会「現・新」合同委員会(於東京芸術大学)
- 3月27日 事典編集委員会委員会(於東京芸術大学)
- 29日 学会誌第30-4号・ニュースレター4号発送(於小金井郵便局)
- 5月6日 選挙管理委員会(於東京芸術大学)
- 19日 平成13年度第1回編集委員会(於東京芸術大学)
- 25日 平成12年度会計整理(於事務局)
- 26日 平成12年度会計監査(於東京芸術大学)
- 26日 平成13年度第1回常任理事会(於東京芸術大学)
- 26日 平成13年度第1回理事会(於東京芸術大学)
- 6月8日 ニュースレター臨時号発送(於千葉大学)
- 9日 理事選挙人名簿作成(於事務局)
- 16日 会長・理事選挙投票用紙発送(於小金井郵便局)
- 28日 学会誌第31-1号・ニュースレター5号の発送(於小金井郵便局)
- 30日 第32回大会研究発表メ 応募数42通
- 7月7日 会長・理事選挙開票(於小金井郵便局)
- 13年度第2回編集委員会(於東京芸術大学)
- 8日 13年度第2回常任理事会(於東京芸術大学)
- 15日 ホームページ作成委員会(於談話室滝澤)
- 8月9日 事典拡大委員会(於東京芸術大学)
- 29日 第32回大会プログラム・ニュースレター6号発送(於小金井郵便局)
- 9月8日 30周年記念事典拡大委員会(於東京芸術大学)
- 22日 13年度第3回編集委員会(於東京学芸大学)
- 10月26日 琉球大学と合同会議(於琉球大学)
- 事務局会議(於琉球大学)
- 11月4日 平成13年第3回常任理事会(於東京芸術大学)
- 5日 ニュースレター臨時号発送(於千葉大学)
- 23日 30周年記念事典拡大委員会(於東京芸術大学)

・30周年記念事典に関連して中嶋編集委員長より以下のような説明があった。

1999年に完成の予定だったが、2年を過ぎて完成に至らないことについておわびを申し上げたい。事情については学会誌、ニュースレター等で報告されたとおり原稿未提出が多かった事、出版元である音楽之友社の状況の変化のため数ヶ月の空白ができたこと、編集委員の協力体制が充分でなかった事などである。しかし昨年度から全学会挙げて協力体制が敷かれ、拡大編集委員会として強化され現在、最後の編集の仕事に

入っている。2002年1月にすべての原稿を出版元に引き渡すことで最後の調整に入っている。音楽之友社は原稿を引き受けてから出版のために10ヶ月準備期間を必要とする。従って、平成14年度中には最終的に完成した状態となるよう努力していきたい。

## 2) 会長・理事選挙結果報告(茂木選挙管理委員長)

選挙方法の大幅な変更があった。改善点の意見等あれば指摘をお願いしたい旨の報告があった。続いて以下のことについても報告された。

日程は下記のように行われた。

- 1月・3月 新旧合同選挙管理委員会
- 3月末 ニュースレターで公示
- 4月 推薦・立候補を募集
- 5月 書類整理
- 5月末 会費納入確認
- 6月 選挙権者、被選挙権者の確定。
- 6月16日 投票用紙等郵送
- 6月末 投票締め切り
- 7月7日 開票。結果を会長などに報告

辞退者が出たため下記のように変更された。

東海地区 大西友信 南曜子氏

近畿地区 柳生力氏 竹内俊一氏

大会のプログラム掲載の結果訂正。

理事選挙結果報告中、東北地区の投票率が28.0%に訂正。しかし結果には影響はないとのことであった。

本日の次期理事会において理事から選出される副会長として平井建二氏を選出した。

## 3) 第7回音楽教育ゼミナール(三好恒明実行委員長)

・日程:2002年9月6,7,8日

・会場:くらしき作陽大学

・統一テーマ:生涯学習時代の芸術教育

・音楽だけでなく、美術も含めたいろいろな芸術領域の参加を考えて企画をすすめる。対象は、学会会員、現場教員、広く興味を持つ一般市民。現在、いろいろなアイデアを集めている段階。

以上1)~3)の報告がなされた後、近畿地区、神戸大学の岩井氏より選挙についての提案がなされた。一人一票についての検討希望と票数の公表についての検討希望であった。

## 5. 協議

### 1) 平成12年度会計報告および監査報告

・平成12年度会計報告・同監査報告

大会プログラム57頁・58頁に基づいて岩崎会計担当・重嶋会計監事よりそれぞれ報告と承認がなされた。

### 2) 平成13年度補正予算案について(岩崎会計担当)

琉球大学での大会中止と本大会実施、事務局移転のため予算の補正について総会資料に基づき説明し、承認された。(14ページ参照)

### 3) 平成14年度事業計画および予算案について

#### 平成14年度事業計画(宮野事務局長)

平成14年5月中旬	平成13年度会計監査 平成14年度第1回編集委員会 平成14年度第1回常任理事会 平成14年度第1回理事会
6月中旬	学会誌第32-1号発行・ニュースレターNo.8
末日	研究発表(口述)申し込み〆切 平成14年度第2回編集委員会
7月上旬	第2回常任理事会 研究発表受理通知
8月下旬	学会誌第32-2号発行・ニュースレター-No.9 第33回大会要項発送
9月6日(金)	第7回音楽教育ゼミナール
7日(土)	"
8日(日)	"
11月8日(金)	平成14年度第3回編集委員会 平成14年度第3回常任理事会 平成14年度第2回理事会
9日(土)	第33回大会
10日(日)	"
12月中旬	学会誌第32-3号発行・ニュースレターNo.10
平成15年2月	第4回編集委員会 平成14年度第4回常任理事会
3月末日	学会誌第32-4号発行・ニュースレターNo.11 平成14年度会計決算

平成14年度予算案(岩崎会計担当)

- ・大会プログラム59ページ、総会資料に基づき説明された。(15ページ参照)
- ・平成13年度補正予算案の承認に伴い、前年度・次年度繰越金の訂正を説明し承認された。

#### 4) 次期役員承認(宮野事務局長)

会長	村尾忠廣
副会長	平井建二(理事互選)
副会長	坪能由紀子(会長指名)
事務局長	筒石賢昭
常任理事	奥忍、加藤富美子、北山敦康、重嶋博、島崎篤子、杉江淑子、藤沢章彦、丸山忠璋、筒石賢昭
会計監事	岩崎洋一、宮野モモ子
地区代表理事	北海道地区 浅井良之 東北地区 丸林実千代 関東地区 藤沢章彦 北陸地区 伊野義博 東海地区 南曜子 近畿地区 中原昭哉 中国地区 野波健彦 四国地区 田邊隆 九州地区 木村次宏

以上の報告があり、次期役員が承認された。

#### ・次期会長挨拶(村尾忠廣)

学会が競争の時代を迎える。日本音楽教育学会だけでなく、いろいろな学会ができる。大学・研究者の評価に学会もかかわっていくことになり、学会の使命が一層大きくなる。一所懸命やっていきたい。

#### 5) 編集委員会規定改正について(加藤富美子編集委員長)

編集委員会規定の改正について以下内容の説明がなされ、承認された。

現 行	改 正
<p>第2条 (2) 学会誌は、本学会会員の研究論文、及び報告(学会誌にふさわしい調査・実践報告など)、書評、反論等を掲載する。 (4) 委員会は、報告、書評、反論等の選定に際しその採否を決定するが、内容によっては専門領域の査読委員の判断を求めることがある。</p> <p>第3条 (3) 常任理事の互選による委員 1名 して、理事会が推薦する委員 10名</p>	<p>第2条 (2) 学会誌は、本学会会員の研究論文、及び研究報告(学会誌にふさわしい調査・実践報告など)、研究動向、書評、反論等を掲載する。 (4) 委員会は、研究報告、研究動向、書評、反論等の選定に際しその採否を決定するが、内容によっては専門領域の査読委員の判断を求めることがある。</p> <p>第3条 (3) 常任理事の互選による委員 1名 して、理事会が推薦する委員 10名</p>

#### 6) 第33回大会開催地について(金城学院大学)

日程が平成14年11月9日(土)10日(日)となる旨、実行委員長浅野隆氏から説明がなされた。なお理事会等は8日の予定である。

#### 7) 第34回大会開催地について(近畿地区:岩井正浩)

神戸大学で準備をすすめる方向である。日程については未定である。

## 8) その他

会長より会場ロビーに音楽之友社、アカデミア書店、ユニバーサルからの資料展示がある旨のお知らせがあった。

## 6. 閉会の辞（平井建二副会長）

### ・研究発表

A B C D E F G H I J の 10 会場で計 38 名の口頭発表が行われ盛況であった。

### ・プロジェクト研究

以下 A B C D E の 5 会場で行われ、いずれも盛

況であった。

A 「音楽教育における『質的』『量的』融合への道」

- データ分析上の落とし穴に注目して -

B 「地域の音楽家と学校教育の連携」

C 「日本伝統音楽の西洋化と学校音楽教育」

D 「ネットワークを活用した音楽科教育の可能性と課題」

- 「散在」から「結ぶ」「交流する」活動に向けて -

E 「音楽教育史研究の再検討(2)」

- 子ども・教師・制度から見る国民学校芸術科音楽 -

### ・その他

若手研究者の集いがおこなわれた。

## 平成 13 年度補正予算

収 入		支 出		
科 目	13 年度予算	科 目	13 年度予算	13 年度補正予算
前年度繰越金	2,699,960	大会運営費	1,550,000	2,200,000
正会員会費	9,660,000	大会本部経費	600,000	1,050,000
	(7000 × 1380)	事務局経費	750,000	750,000
学生会員会費		プロジェクト研究	200,000	200,000
団体会員会費	50,000	旅費・交通費	0	200,000
賛助会員会費	510,000	印刷費	2,380,000	2,380,000
学会誌売上金	370,000	学会誌費	2,080,000	2,080,000
大会参加費	1,200,000	ニュースタ費	300,000	300,000
	(4000 × 300)	例会運営費	840,000	840,000
雑収入	200,000	通信・郵送費	1,060,000	1,600,000
		会議費	250,000	250,000
		旅費・交通費	1,730,000	2,000,000
		宿泊費	200,000	200,000
		事務局費	2,870,000	3,320,000
		事務費	320,000	320,000
		人件費	1,550,000	1,600,000
		事務局運営費	1,000,000	1,400,000
		分担金	140,000	140,000
		選挙費	150,000	150,000
		退職引当金	20,000	20,000
		研究出版基金	0	0
		学会基金	0	0
		予備費	800,000	800,000
		次年度繰越金	2,699,960	789,960
計	14,689,960	計	14,689,960	14,689,960

平成 14 年度予算

収 入		支 出	
科 目	14年度予算	科 目	14年度予算
前年度繰越金	789,960	大会運営費	1,500,000
正会員会費	9,940,000	大会本部経費	700,000
	(7000 × 1420)	事務局経費	600,000
		プロジェクト外研究	200,000
団体会員会費	50,000	印刷費	2,750,000
賛助会員会費	490,000	学会誌費	2,350,000
学会誌売上金	380,000	コンピュータ費	400,000
大会参加費	1,300,000	例会運営費	800,000
	(4000 × 325)	通信・郵送費	1,100,000
雑収入	200,000	会議費	200,000
		旅費・交通費	1,700,000
		宿泊費	200,000
		事務局費	3,000,000
		事務費	320,000
		人件費	1,630,000
		事務局運営費	1,050,000
		分担金	140,000
		選挙費	150,000
		退職引当金	20,000
		研究出版基金	0
		学会基金	0
		予備費	800,000
		次年度繰越金	789,960
計	13,149,960	計	13,149,960

住所・所属変更及び新入会員住所(1月承認まで)2000年度版NO.4平成14年2月28日現在

---

## 編集後記

ニュースレター第7号は現執行部の最後のニュースレターとなります。ふり返ってみますと山本会長の3年の間に実にたくさんの改革を進められたように思います。このニュースレターの発刊自体がその一つです。私的になりますが、何よりの感謝は会長がこれまでの慣例を破って副会長に相談をしてくれたことです。（その副会長のあり方の見直しを諮問したのは、河口前会長でした。）二人の副会長が会長提案にクビを縦に振らなかったこともありました。深夜まで大激論を戦わしたこともあります。懐が深いというか、大激論の後が実にさわやかでした。

次号からはニュースレターも一新されます。これまでは、企画・編集を副会長と総務で順に担当してきましたが、編集実務、レイアウトは村尾がおこなっていました。次号からはレイアウトも含めた編集実務を北山理事にお願いすることになります。これまでも、編集上の問題をしばしば北山さんに助けてもらっていましたから、今までとは違い、万全になることでしょう。どんなレイアウトになるか、ご期待ください。

（村尾忠廣）

---

### 日本音楽教育学会 役員（1999～2001年度）

会長：山本文茂 副会長：平井建二・村尾忠廣

常任理事：（事務局長）宮野モモ子，（総務）佐野靖，大西友信，

（企画）坪能由紀子，遠山文吉，岩井正浩，三好恒明，（会計）杉江淑子，岩崎洋一

理事：中村隆夫（北海道）降矢美彌子（東北）大畑祥子，高萩保治，筒石賢昭，

丸山忠璋，吉田 孝（関東）伊野義博，藤川一芳（北陸）佐橋 晋（東海）

築島章子，中原昭哉（近畿）野波健彦，吉富功修（中国）吉森章夫（四国）

【事務局住所】184-0015 東京都小金井市貫井北町 2-5-22 ハイツシーダ 1-102

【私書箱】 184-8799 東京都小金井郵便局私書箱 26

Tel/Fax 042-381-3562 E-mail : onkyoiku@remus.dti.ne.jp

http://www.remus.dti.ne.jp/onkyoiku/index.html